

性の多様性を認め合う 児童生徒の育成Ⅱ



平成30年 3月

倉敷市教育委員会



渡辺大輔（埼玉大学 基盤教育研究センター）

「あの先生ってホモっばいよね」。「先生オカマっばい」。前者は小学校6年生の女の子たちが嘲笑混じりに、後者は小学校2年生の男の子が無邪気な感じで、「男らしくない」と見なした私に向かって発した言葉です。このように、子どもたちは「性の多様性」について何も知らない「無垢」な存在なのではなく、「男らしさ」や「女らしさ」といった社会の中で「規範」とされている枠組みから外れた存在を、「ホモ」や「オカマ」、「オナベ」や最近では「オネエ」といった言葉を用いて、自分たちとは違うものとして差別したり排除したりするといった「知」を既にもっています。

では、どこからその「知」を得たのか。それは、おとながつくるメディア（テレビ番組、漫画雑誌、インターネットの書き込み等）や、親や保護者、家族との会話、友達同士のおしゃべり、学校の先生とのやりとりの中で、そういった「知」を獲得し、拡散しています。

これまでの学校教育は、保健体育科の教科書にも「思春期に入り……自然と異性への関心が高まり」と記載されているように、自分の身体の性別に違和感をもたず、かつ自分にとって異性を好きになることが前提となっていました。したがって、そういった学校文化に適應しがたい子どもたちが、いじめの対象となったり、不登校となったりすることが、ようやく「問題」として認識されるようになってきました。

そういった「問題」への対策の一つとして掲げられたのが「人権教育」です。平成27年に文部科学省から出された通知において、このテーマに関する「人権教育」の推進が求められました。こういった「人権教育」では、いじめや差別をなくすために、「性的マイノリティを理解する」ということが求められることが多いかと思えます。

しかし、ここには「人権教育」としての大きな課題が横たわっています。「人権教育」に求められるのは、これまで「普通」といつてきたマジョリティが、マイノリティを「普通」の仲間に入れてあげることではありません。むしろマジョリティが「普通」の枠から降り、自分を「多様性」の中の一つとして位置づけ直すことにあります。つまり、「LGBT」や「性的マイノリティ」について学ぶのではなく、「マイノリティ」を知らなくてもよいとしてきた社会（自分）を問い、自分自身を含む「性の多様性」について学ぶということです。これは、すべての（セクシュアリティの）人々の基本的人権でもある「学習権」（ユネスコ「学習権宣言」1985年）を保障することにもつながります。

さらに、こういった学びは、おとなにこそ必要となります。「性の多様性」についての学びは、私たちの固定観念を問い直すだけでなく、生きる道を広げる力ももっています。その実感とともに、子どもたちと語り合うことが、性別二元的で異性愛主義が浸透していた学校という場（システム）を、共に生活する場として作り直すことにもつながります。

これまで倉敷市で子どもとおとなが共に取り組んできたことが、このような「教育実践」へととなっていくことを期待しています。

性の多様性を理解する上で大切な視点である「SOGI」

「SOGI」とは、Sexual Orientation（性的指向） and Gender Identity（性自認）の頭文字を取った総称です。平成18（2006）年以降、国際連合の諸機関で広く用いられている概念です。平成28年の文部科学省文書の中でもこの表現について記されています。

性的マイノリティを表す「LGBT」や「LGBTQ」などの表現も一般的によく使われますが、この表現には「多数者と少数者」「自分には関係ない話」という捉え方につながるという指摘もあります。「LGBTという分類」ではなく、「性的指向・性自認という構成要素」に着目することで、多数派か少数派かの違いはあっても「誰もが当事者」と捉えやすくなるのではないのでしょうか。「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」において、「SOGI」は重要な概念と言えます。



倉敷市教育委員会

はじめに

近年、性的マイノリティへの社会的関心が高まっているにも関わらず、その理解は十分に進んでいるとは言えません。その割合は、調査によっては7.6%（2015年電通調査）とされており、児童生徒の中にも存在するという認識が求められています。

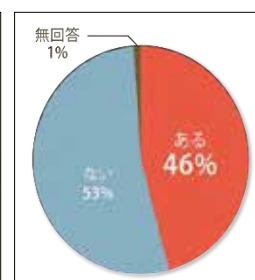


学校における性的マイノリティとされる児童生徒の思い

主に県内の当事者を対象にしたアンケート調査結果を見ると、セクシュアリティに関することが原因で「学校へ行きたくないと思ったことがある」「自傷行為をしたことがある」といった質問に対して高い割合で「ある」と答えていることから、自分らしさを出せず、生きづらさを感じている（いた）ことが伺えます。その背景には、周囲の理解不足やメディア等の影響からくる偏見があると考えられます。友達からのからかいやいじめ、教師の言動などに傷ついたという声も聞かれました。平成24年に閣議決定された「自殺総合対策大綱」でも「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する。」と示されています。

「学校へ行きたくない
と思ったことは？」

自傷行為をしたことが
ある？



性的少数者自助グループ「プライド岡山」によるアンケート調査（2016年岡山市市民協働推進ニーズ事業）より

平成22年「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について」

平成26年「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について」

平成27年「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」

平成28年「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」

学校における支援について

学校における性同一性障害に係る児童生徒への支援について、文部科学省も対応を進めており、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」では、学校における支援体制や医療機関との連携、学校生活の各場面での支援などについて具体的に示されました。この中で、悩みや不安を受け止める必要性は、性同一性障害に係る児童生徒だけでなく、いわゆる「性的マイノリティ」とされる児童生徒全般に共通するものであることが明記されています。



学級・ホームルームにおいては、いかなる理由でもいじめや差別を許さない適切な生徒指導・人権教育等を推進することが、悩みや不安を抱える児童生徒に対する支援の土台となること。（「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」より）

今、「性の多様性を認め合う児童生徒の育成」が求められている

性的マイノリティの人権が保障されるために、性的マイノリティとされる児童生徒への個別支援は当然必要ですが、性自認・性的指向については秘匿性が高く、周囲に打ち明けられないことも多いと考えられます。また、周囲から刷り込まれた偏見や決めつけのために「性的マイノリティは異常」「からかいの対象」と認識している児童生徒も多くいます。そう考えると、全ての児童生徒が性自認や性的指向の多様性について正しく理解し、互いを認め合うことができるような指導が重要な鍵を握っていると言えます。指導に当たって「性的マイノリティ」や「LGBT」という語句が前面に出過ぎると、児童生徒が「自分たちとは違う人たちのこと」と捉えてしまいます。**「LGBTについて学ぶのではなく性の多様性を学ぶ。LGBTの人々について考えるのではなく私たちの生き方を考える。」**そのような姿勢が大切です。この教育活動は、性の問題に限らず、人権教育で大切にしたい「多様性の尊重」や「当事者性の意識」、「自尊感情の高まり」にもつながるものであり、いじめの未然防止にも貢献できると考えています。

素地づくり～「性の多様性」に関する学習の前提～

学習に当たっては、違いを認め合い、自分らしさを大切にできるような学級経営や性の多様性を認め合うことにつながる教師の言動などの素地づくりが不可欠です。素地がつくられていないと十分な学習効果は期待できません。次に挙げる項目について、今一度確認してみましょう。

教師の言動の見直し

「女／男らしく」「男／女のくせに」など何気ない一言が児童生徒を傷つけることがあります。教師が言わないとしても児童生徒の発言（いわゆる「オカマ」「ホモ」ネタ等）を見過ごしては同じことです。正しい知識を基にした、児童生徒の自己肯定感を高める言葉や態度が欠かせません。

男女区分の再点検

学校生活における男女区分が必要なものか不必要なものか、再点検してみましょう。（例：名簿、呼称、役割分担、ネームカードの色等）

違いを認め合い、一人ひとりを大切にする学級づくり

「よいところ探し」や自尊感情を高める取組などを継続して行うとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、違いを認め合う言動を増やします。教師は、日頃から受容と共感の態度で児童生徒に接します。



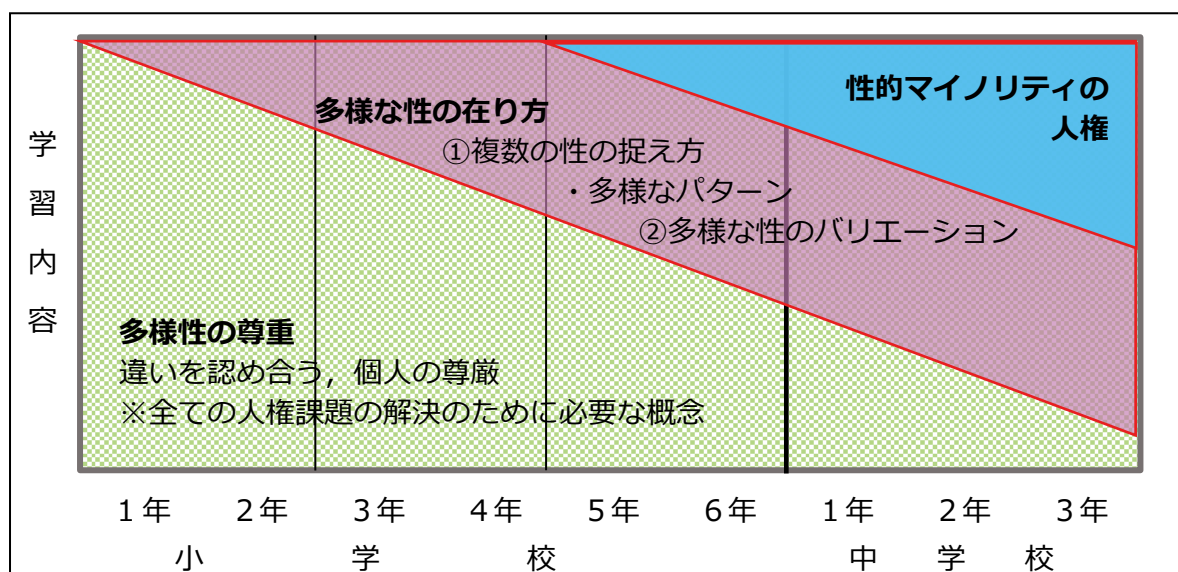
授業実践をする前に教職員の共通理解を図るために教職員研修を実施することが望ましいです。研修内容は、視聴覚教材の視聴・資料の読み合わせ、性的マイノリティ当事者・支援者や専門家による講話・ワークショップ等が考えられます。倉敷市教育委員会でも情報提供及び講師派遣をしていますので、お問い合わせください。

保健室・図書室との連携

環境づくりや支援は、教室で学級担任中心に行うだけでなく、養護教諭、図書館司書との連携によって、保健室・図書室でも行うことができます。関連する書籍の閲覧・貸出や関連ポスターの掲示、相談先を記したリーフレット（カード）の設置などにより、性的マイノリティとされる児童生徒の安心感や自己肯定感を高めることが期待できます。また、児童生徒全体が正しい知識を得ることにもつながります。



発達段階に応じた学習内容



ベースとなる「多様性の尊重」につながる学習

まずは、どの人権課題にも言えることですが、違いを認め合う、個人を大切にするといった「**多様性の尊重**」は**小学校低学年から中学校までどの学年でもベース**として必要です。多様性に関連した絵本の読み聞かせや、文化的多様性やバイアス（偏見や先入観）を考える学習などがあります。

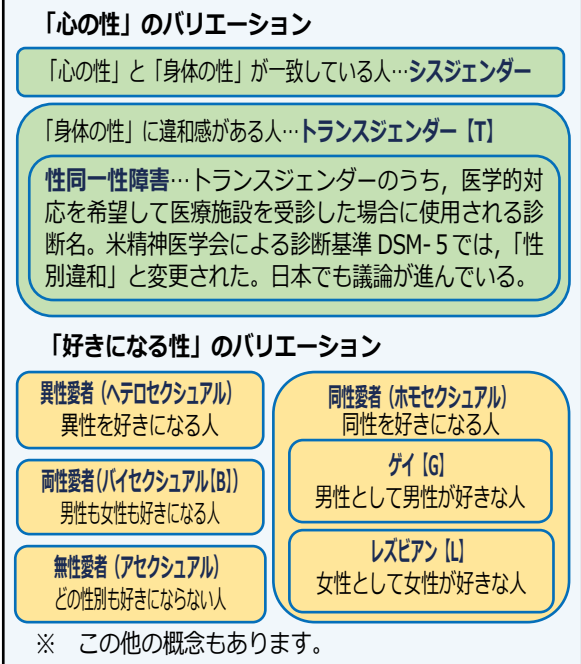
多様な性の在り方①「入り口」

性の捉え方（要素）は「身体の性」だけでなく「心の性」や「社会的な性」、「好きになる性」など複数あることに気付き、「**男女二つにしか分けられない**」「**異性を好きになるのが当然**」という**ものではない**ことを「性のものさし」などを基に理解します。捉え方が一つでないなら性の在り方は何パターンもあることになり、「**みんなどこかに位置付けている（誰もが当事者）**」と見えやすくなります。



多様な性の在り方②「深める」

前時に大きく捉えた性の要素について、もう少し詳しく学習します。各要素におけるバリエーションを考えていきますが、バリエーションの一つとして少数派に位置付けられる「性的マイノリティ」と、多数派に位置付けられる存在が対等であることを理解します。ここでは「LGBT」という語句の意味以上に、「**どのような性の在り方であってもおかしくない**」ことこそ大切な知識です。「普通の人とそうでない人」ではなく、「**マイノリティもマジョリティも多様性の中の一員としてフラットに捉えます。**」

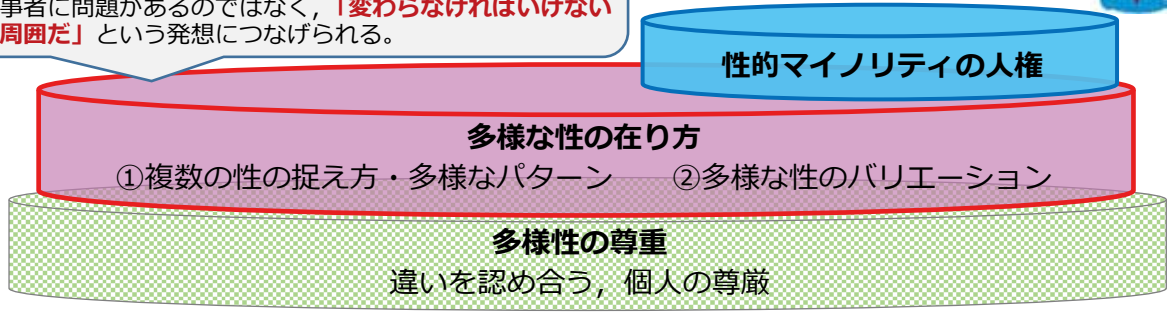


性的マイノリティの人権「出口」

最終段階でいよいよ「性的マイノリティの人権」の学習です。手記やゲストティーチャーの話から、**当事者の思い（生きづらさや自分らしく生きている姿など）を共感的に理解し、生きづらさをつくり出す社会（周囲）の問題を自分に引き寄せて考え、行動に結び付けます。**前時まで「多様な性の在り方」について理解しているので他人事のように捉えることはないはずですが。この学習において、いきなり「性的マイノリティの人権」を取り上げると、児童生徒にとって唐突感のある授業になり、困惑や「当事者探し」を引き起こす恐れもあります。当事者の生きづらさを理解することは、性の多様性を学ぶ上で重要な要素ですが、それが全てではありません。「多様な性の在り方①・②」を充実させることがこの学習のポイントと言えます。

この部分がしっかりしていれば…
★「性的マイノリティはかわいそう」ではなく、「**そもそも多様であるべきはずなのにおかしい**」と捉えられる。
★当事者に問題があるのではなく、「**変わらなければいけないのは周囲だ**」という発想につながられる。

「**社会モデル**」の考え方ですね！



入り口【多様な性の在り方①】

入り口

★性のとびらを
開いてみよう

深める

いろいろな性について
もっとくわしく知ろう

出口

誰もがありのままの
自分であるために

指導のねらい

性の在り方は多様であることを知り、自分も多様な性のグラデーションのどこかに位置付いていることに気付くようにします。

関連学習

- 多様性に関連する絵本の読み聞かせ (p. 21 参照)
- 学級活動
 - ・ 文化的多様性に気付く学習
 - ・ バイアス (偏見や先入観) を見抜く学習
 - ・ 「ちがいのちがい」
- 道徳 [個性の伸長]
- 体育科, 保健体育科 [保健分野]
 - ・ 「体の発育・発達 (小学校)」
 - ・ 「心身の機能の発達と心の健康 (中学校)」

※ 「社会的な性」については、男女平等・男女共同参画の視点で行われる学習と関連付けることができます。(資料「ONE STEP UP」p. 21参照)

学級活動「性と

1. めあてをつかむ

- 関連する絵本の読み聞かせをして、性の多様性について関心をもつことができるようにします。(p. 21 参照)
- 「性の在り方は男女二つしかないのか」と問い掛け、めあてにつなげます。

2. 性の捉え方を知る

- 「性の在り方を決めるのは何か」を尋ね、性の捉え方は身体だけではないことに気付くようにします。
- 性の捉え方には、「身体の性」、「心の性」、「社会的な性」、「好きになる性」など複数あることを簡単な説明をしながら確認します。

性のとびらを開いてみよう

【性のものさし】

身体の性



心の性



社会的な性



好きになる性



「女/男らしさ」
考えよう。

女らしさ

かみが長い
スカート
赤色
かわいい
料理好き
ていねい

「女/男
はつきり

「社会的な性」については、「性のものさし」の基準はあいまいであることも補足します。

「身体の性」は生まれた時の性、「心の性」は自分がどの性別と感じているかの性、「社会的な性」は服装や振る舞いなど女/男らしさの性、「好きになる性」は好きになる相手の性のことです。

びらを開いてみよう

※ 「倉敷モデル」の学習指導案は、倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。
(p.22参照)

3. 女／男らしさについて話し合う

- 「社会的な性」における「女／男らしさとはどんなことか」について具体的なものを話し合います。
- 「女／男らしさ」は、はっきり決められるものではなく、それぞれの具体的なものは誰がもっていてもおかしいことではないことを押さえます。

4. 自分の性の在り方を考える

- 「性のものさし」を活用して、教師が例示をした後、各自で「自分ほどの辺りに位置するのか」を考え、自分の性の在り方を探ることができるようになります。
- 発達段階に応じて「社会的な性」を「表現する性」などと置き換えて提示することもできます。

5. 性の在り方の多様性に気づき、まとめをする

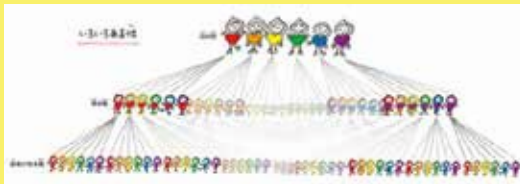
- 「性の在り方が同じ人はいると思うか」と問い、性の在り方が全く同じ人はいないことを確認します。
- 「多様な性のイメージ図」で、性の多様性及び自分もどこかに位置していることに気付くようにします。

について

男らしさ

かみが短い
ズボン
青色
かっこいい
ゲーム好き
力強い

【多様な性のイメージ図】



渡辺大輔監修『いろいろな性、いろいろな生きかた』
(第1巻)、ポプラ社、2016年

- ・いくらでもある
- ・30人いたら30通り
- ・みんなちがう
- ・ちがいは自分らしさ

らしさは決められない。

性の在り方は多様であり、自分もどこかに位置付いている。

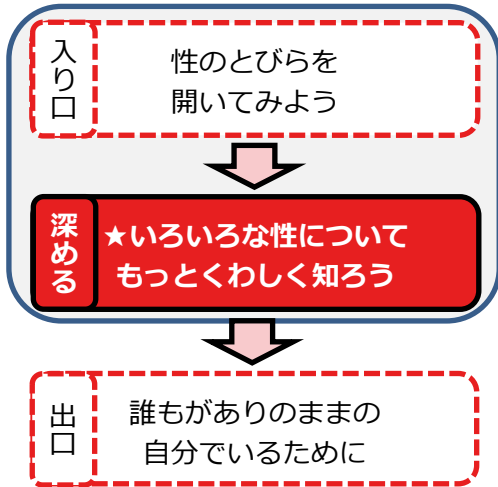
ここで「身体の性」に関する事例が出ることもありますが、「社会的な性」にしばって事例を提示し、「身体の性」と混同しないようにします。

男女二つの在り方しかないという最初の考えが、性の在り方は多様であるという考えに転換されるまとめにします。

留意すること

- 「性のものさし」について
 - ・ 分からなくても、この枠に納まらなくてもよいことを伝えます。
 - ・ 秘匿しておきたい児童生徒もいると考えられるので、発表させたり、友達と話し合ったりしないようにします。
(ワークシートに記入する場合、記入せず心の中で考えるだけでもよいことにします。)
 - ・ 教師が例示することがありますが、教師自身の人権も児童生徒同様守られるものであり、必ず例示する必要はありません。
 - ・ 「性のものさし」を使わなくてもかまいません。
- 「女／男らしさ」は、はっきり決められるものではないことを、次のような手立てで押さえます。
 - ・ 「女／男らしさ」の札を入れ替えます。
 - ・ 具体的事例を混ぜ合わせます。
 - ・ 「社会的な性」の「性のものさし」の両端の男女を取り外してもよいことを確認します。

深める【多様な性の在り方②】



指導のねらい

性の捉え方におけるバリエーションを考える中で、多様な性の在り方について正しく理解することができますようにします。

※ 本時は前時に大きく捉えた学習内容をさらに深めることを目的にしていますが、発達段階に応じて、前時に包括して学習することもできます。

関連学習

- 体育科，保健体育科〔保健分野〕
 - ・ 「体の発育・発達（小学校）」
 - ・ 「心身の機能の発達と心の健康（中学校）」
- 道徳〔相互理解，寛容〕
〔公正，公平，社会正義〕

★1

心と身体の性が一致している人を「**シスジェンダー**」、違和感がある人を「**トランスジェンダー**」といいます。

★2

トランスジェンダーのうち、医学的対応を希望して医療施設を受診した場合に使用される診断名が「**性同一性障害**」です。性同一性障害とされる人の中でも、性別適合手術を望むかどうかは人それぞれです。

★3

異性を好きな人を「**異性愛者（ヘテロセ）**」を好きな人を「**同性愛者（ホモセクシュア）**」性として女性が好きな人を「**レズビアン**」、好きな人を「**ゲイ**」、男性も女性も好きになる「**イセクシュアル**）」といいます。

学級活動「いろいろな性に

1. めあてをつかむ

- 前時の学習を踏まえ、「性の在り方について、疑問に思っていることや詳しく知りたいことは何か」を問うことで、本時のめあてにつなげます。



2. 「心の性」のバリエーションを知る

- クイズ形式で解説をしながら、正しい知識を得られるようにします。
【0×クイズ（例）】
 - ・ 「心の性」と「身体の性」は必ず同じである。→答え×（★1の解説）
 - ・ 「心の性」と「身体の性」が一致しない人は、全員手術して性別を変える。→答え×（★2の解説）

いろいろな性についてもっとくわしく知ろう

【性のものさし】	女	男
身体の性	●	●
心の性	女	男
社会的な性	女	男
好きになる性	女	男

【多様な性のイメージ図】



渡辺大輔監修『いろいろな性、いろいろな生きかた』（第1巻）、ポプラ社、2016年

「心の性」



「身体の性」とあっていると感じる

「身体の性」とちがうと感じる

ついてもっとくわしく知ろう」

※ 「倉敷モデル」の学習指導案は、倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。
(p.22参照)

3. 「好きになる性」のバリエーションを知る

- クイズ形式で解説をしながら、正しい知識を得られるようにします。
【0xクイズ(例)】
- ・ 人間はみんな、異性を好きになる。→答え×(★3の解説)
- ・ 同性愛は、病気である。→答え×(★4の解説)
- ・ 人はいつか男性女性のどちらかを好きになる。→答え×(★5の解説)

4. 性の在り方における少数派(マイノリティ)について考える

- 少数派(マイノリティ)を、多数派(マジョリティ)とともに説明します。
- 「性の在り方が少数派だからといって、それはおかしいことなのか」について考え、多数派・少数派いずれに位置付けていてもバリエーションの中の一つの在り方であり、異常でも変でもないことであり、対等であることを理解させるようにします。

5. まとめをする

- 「この学習の新たな気付きは何か」と尋ね、まとめにつなげます。
- 「次時はこれまで学んだことをもとに、自分たちの生き方を考えよう」と投げ掛けることで、次時の学習内容をイメージできるようにします。

異性愛

同性愛

「好きになる性」

両性愛

無性愛

少数派(マイノリティ)であってもおかしいことではない。
多数派・少数派どちらも対等。

性の在り方は実に多様で、多数派であっても少数派であっても多様な性の一員である。

クシュアル)」、同性ル)』といいます。女男性として男性が好人を「両性愛者(バ

★4

WHO(世界保健機関)は1993年、「同性愛は治療の対象にならない」と宣言しました。

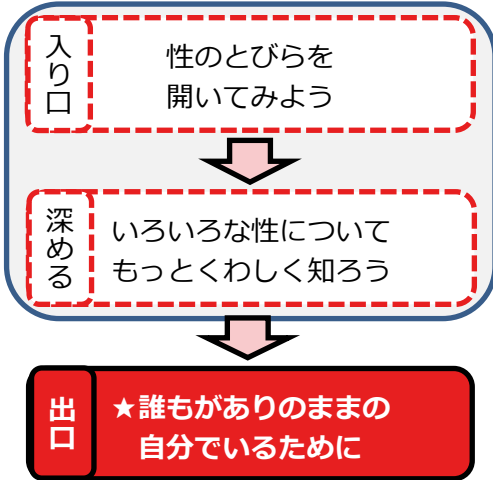
★5

どの性別も好きにならない人を「無性愛者(アセクシュアル)」といいます。

留意すること

- バリエーションの説明について
 - ・ 発達段階に応じて提示する用語を考えます。
 - ・ 「LGBT」の用語の説明のみに終わらないようにします。
 - ・ 性的マイノリティを強調せず、多数派と少数派を同じように提示します。
 - ・ 多数派を「普通の人」とは言わないようにします。
 - ・ 性の在り方は、揺れ動いたり、決められなかったりすることがあり、無理に枠に当てはめなくてもよいことを伝えます。
- 性的マイノリティに対して侮辱する発言や個人を特定して揶揄する言動が見られたら、真剣に考えるよう諭したり、なぜそう思うのか問い直したりして、真摯な姿勢を教師がしっかり示します。
(具体的な対応例)
 - ・ 「ちょっと待って。」
 - ・ 「本当にそうなの？」
 - ・ 「何でそう思うの？」
 - ・ 「みんなに関係ある話だったね。」
 - ・ 「みんなで考えよう。」
- 性についてはデリケートなことであり、他人の性の在り方を詮索しないことを伝えます。

出口【性的マイノリティの人権】



指導のねらい

性的マイノリティ当事者の思い（生きづらさ、自分らしく生きている姿など）を共感的に理解し、生きづらさをつくり出す社会（周囲）の問題や誰もがありのままの自分であるために大切なことを考えます。

関連学習

- 道徳 [公正, 公平, 社会正義] [相互理解, 寛容] 性的マイノリティ当事者の気持ちに共感し, 共に生きようとする心情を養います。
 - 総合的な学習の時間 自分たちができることを実践したり, 発信したりするアウトプットの活動を行います。
 - 社会 [公民的分野] 人権の視点で社会を見つめ直し, 課題を解決するための手がかりを見つけます。
- ※ 資料 (p. 21, 22 参照)
- ・ DVD 「あなたがあなたらしく生きるために～性的マイノリティと人権～」 YouTube「法務省チャンネル」で視聴できる
 - ・ DVD 「多様な性ってなんだろう? <中学生向け映像教材>
 - ・ 「カミングアウト・レターズ」
 - ・ 「ダブルハピネス」

学級活動「誰もがありの

1. めあてをつかむ

- 前時の学習を踏まえ, 多様な性の在り方のどれもが同じように尊重されることを確認します。
- 「どの性の在り方であっても, ありのままの自分であることができると思うか」と問い掛け, めあてにつなげます。

2. 当事者の生き方(思い)を知る

- 手記やDVD, ゲストティーチャーの話などを通して, 「当事者Aさんの生き方(思い)を考えよう」と投げ掛け, 共感的に理解できるようにします。
- 当事者Aさんの生きづらさとともに, 自分らしく生きている姿も取り上げます。

誰もがありのままの自分であるために大切なことを考えよう

トランスジェンダーのAさん

Aさんが生きづらさを感じる理由

- ・ 性的マイノリティをからかいの対象にする
- ・ マジョリティとマイノリティを分け隔てること
- ・ 差別する言葉
- ・ 「男らしさ・女らしさ」を押しつけられてしまう社会

Aさんの生き方から学ぶところ

- ・ 自分のことをしっかり見つめている
- ・ 好きなものを「好き」と言える
- ・ 自分に素直
- ・ 共に生きることの大切さ(周囲がこの問題を考えること)

周りの人(私たち)の在り方の問題

性的マイノリティ当事者の問題ではなく, 変わるべきは周りの人や社会のシステムであることを押さえます。(社会モデルの考え方)

ありのままでいようとする「かっこいい」生き方

当事者の自分らしく生きている姿も捉えることで, 「～してあげる」ではなく, 共に生きていく意識をもつようにします。

ままの自分でいるために」

※ 「倉敷モデル」の学習指導案は、倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。
(p. 2 2 参照)

3. 当事者の生きづらさの理由と生き方から学ぶところを考える

- 「当事者 A さんが生きづらさを感じるのはどうしてか」と問い、周りの人の偏見・差別が大きな要因であることを確認します。
- 「当事者 A さんの生き方から学ぶところはどこか」と問い、次の活動につなげます。

4. 大切にしたいことを話し合う

- 「誰もがありのままの自分でいるために大切なことは何か」を話し合います。
- 前時までの「多様な性の在り方」と本時で学んだことを生かして考えるように助言します。

5. まとめをする

- 当事者の方からのメッセージなどを読み、当事者の思いも受けて、誰もがありのままの自分でいることができるようにしようという意識を高めま
- 今までの言動を振り返り、自分のめあてを決めるようにします。

誰もがありのままの自分でいるために大切にしたいことは？

- ・ 性の多様性に対する肯定的な言葉
- ・ 自分と他者の個性（違い）を尊重する
- ・ 少数も多数も同じように考える
- ・ 正しい知識をもつ
- ・ 自分も友達も大切にする
- ・ Aさんや自分自身が、自分に素直でいられる環境をみんなでつくる
- ・ 比べるのではなく、自分は自分でいいと考える

性は多様であることを理解し、互いにその人らしさを認め合うことが大切。

周りの人の在り方だけでなく、自分も性の多様性の一員としてどうありたいかも考えます。

大切にしたいことは、「～しない」、「～をなくす」というものが出た場合、肯定的な「～する」という言い方に置き換えると、ポジティブなまとめになります。

留意すること

- 「～してあげる」という発言があった場合を捉えて、「『～してあげる』でいいのかな」と切り返し、少数派も多数派も性の多様性の一員として対等であることを再確認します。
- 性的マイノリティ当事者を探したり、カミングアウトを促したりアウティングをしたりすることはいけないことだということを発達段階や実態に応じて伝えます。

他者の痛みや感情を共感的に受容できる想像力等を育む人権教育等の一環として、性自認や性的指向について取り上げることも考えられますが、その場合、特に義務教育段階における児童生徒の発達の段階を踏まえた影響等についての慎重な配慮を含め、性に関する教育の基本的な考え方や教育の中立性の確保に十分な注意を払い、指導の目的や内容、取扱いの方法等を適切なものとしていくことが必要です。

※「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」（平成 28 年文部科学省）より一部抜粋

性のとびらを開けて自分の性を考える

目指す児童の姿

一人ひとりの考えや性格は違っていて、その違いの一つに性の在り方があることを捉えさせたい。性の在り方は多様であることに気付くとともに、違いを認め合い、自分らしさを大切にしようとする態度を育てたい。

関連学習

学級活動「じゃがいもと友達になろう」

集団は個人が集まっているものであり一人ひとり特徴が違うことに気付く。

学級活動「同じかな、ちがうかな」

人それぞれ考えが異なっていることに気付く、自分と違う意見も受け入れることの大切さを知る。

道徳「あこがれのアナウンサー」

自分のよさに気付き、自分の長所を伸ばそうとする。(個性伸長)

学級活動「ちがいのちがいがい」

あってもよい違いとあってはいけない違いを知る。

★ 学級活動「性のとびらを開けてみよう」

○ 学級活動「好きになる性について考えよう」

○ 道徳「すべての人が自分らしく生きる」

学級活動「何にでもなれるよ！」

固定的な性別による役割分担意識にとらわれず、将来就きたい仕事について考える。

成果と課題

多様性を尊重した素地づくりを意識して関連学習を進める中で、いろいろな人がいることや、多様な考え方があることを肯定的に受け止める発言が出るようになってきた。本時では、性はいろいろな捉え方をすることができ、一人ひとり違うということに気付くことができた。また、それまで思っていた男らしさ・女らしさは誰に当てはまってもよいものだと思いき、女らしさ・男らしさではなく自分の気持ちを大切にしたいという思いをもつことができるようになった。次時で扱った性的マイノリティについては身近に感じにくい児童もいたため、自分の性と向き合うきっかけになるよう、活動形態や資料を工夫し、継続して指導を行いたい。

倉敷市立老松小学校 第4学年

本時のポイント

- ワクワクする性の捉え方の提示
- 「女/男らしさ」から「表現する性」を考える

★学級活動「性のとびらを開けてみよう」

性のとびらを開けてみよう。

性には、身体の性、心の性、表現の性、好きになる性などの捉え方がある。

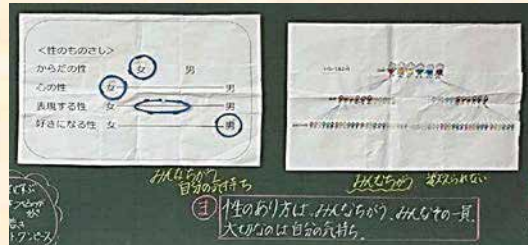


「女/男らしさ」から性をとらえてみよう。

男でも女らしさ、女でも男らしさをもっていていいんだ。

服装や振る舞いは、表現の性。

性のものさしを使って自分の性を考えよう。



性のものさしと多様な性のイメージ図を提示

全く同じ性の在り方の人はいない。一人ひとり違っていい。大切なのは自分らしさだ。

児童の振り返り

- ・ 今までは男女二つだけだと思っていたけど、性の在り方はたくさんあると分かった。
- ・ 人が決めるのではなく、自分がそうだと思う性の在り方が大事だと分かった。

児童自らが性の捉え方を見つけ、多様な性の在り方に気付く

目指す児童の姿

多様な性について理解し、性の在り方は一人ひとり違うことに気付くことで、受容的な態度で自他の違いを認めることができる児童を育成したい。

関連学習

学校全体での取組

- 性的マイノリティ関連の授業、ビデオ視聴
- 教職員研修での共通理解
講師：当事者自助グループ「プライド岡山」
- 授業参観・懇談会で保護者への啓発

クラスでの取組

- ① 道徳『個性の伸長』
- ② 学級活動『ちがいのちがい』

- ③ **★学級活動**
『性の在り方はいくつあるのか』
性の多様性について知り、一人ひとり違ってよいということに気付く。

- ④ 学級活動『好きになることについて』
「好きになる性」の多様性について知り、その人らしさに魅力を感じていることに気付く。

- ⑤ 道徳『自分らしく生きる』
当事者の生きづらさについて話し合い、自分らしさを認める大切さに気付く。

- ⑥ 学級活動『自分らしさが出せる学級にしよう』

成果と課題

児童の発言や振り返りから、男らしさや女らしさなどは固定的なものではなく、性は一人ひとり違い、無限に存在することに気付くことができたように思う。「～が好きなのは〇〇さんらしさだね。」と、その人らしさを認める発言もあった。本時の性の多様性に関する理解をもとにして、次時以降の学習等で理解を深めていくことの必要性を実感した。性的マイノリティ当事者に出会った時や自分もそうかもしれないと感じた時、その人らしさや自分らしさを認め、受容的な態度ができるよう、自他の違いを認め合う活動をこれからも継続して行っていきたい。

倉敷市立倉敷西小学校 第5学年

本時のポイント

- ◎ **性の捉え方を見つけるグループ活動**
- ◎ **「性の在り方は男女二つ」という固定観念を変える**

★学級活動「性の在り方はいくつあるのか」

- 事前アンケート
「男/女でイメージすることは？」

↓
集計したものを12枚のカードにまとめる。
(髪の長さ、声の高さ、服装、しゃべり方など)

- 男/女のイメージ(カード)の分類をする。
＜児童が考えた分類タイトル＞
からだ、外見、自覚、好きなもの、考え方…

児童の分類を、性のものさし(性の捉え方)につなぐ。



- 「性のものさし」で自分の性について考える。
＜児童の気付き＞
 - ・ 全く同じ人はいない。
 - ・ みんな違うからおもしろい。
 - ・ 性の在り方は無限にある。



＜児童の振り返り＞

- ・ 女の子が男らしくしてもいい。性は自分の中にあるのだと思った。
- ・ 自分にも男と女があることに気付いた。どちらかに決めつけられない方がいい。
- ・ 性の在り方はたくさんあって、みんな全く同じじゃない。一人ひとり違っていい。

性の多様性を認め合い自分らしく生きるために

目指す児童の姿

互いの違いやその人らしさを認め、「多様な性」の在り方に関心をもち、正しい知識を身に付けることができるようにする。

「ちがいを」を受け入れようとする素地を育み、「自分らしさ」を大切にしたい温かで柔軟な考えと態度を育成していきたい。

関連学習

道徳「互いに信頼し、学び合って」

友達の気持ちを考えたり自分自身の行いを振り返ったりすることで、友達とのよりよい関係づくりに努めようとする心情を養う。

学級活動「男女仲良く協力し合って」

男子、女子に関係なく、一人の人として認め合い、高め合える関係を築こうとすることができるようにする。

学級活動「男女は同じ？ちがってもいい？」

身の回りの生活の中の男性と女性の違い(同じ)について考える。

学級活動「大切だと思うことは？」

男性と女性にとって特に大切だと思うものを選び、その理由を話し合う。

★ 学級活動「性の在り方を決めるのは何かな？」

○ 学級活動「いろいろな性についてくわしく知ろう」

○ 学級活動「『自分らしく』生きるために自分なら…」

道徳「すべての人が自分らしく生きる」

これまでの自分を振り返ることで、これからの自分について考える。

学級活動「みんなが『自分らしく』いられるために」

これまでの学級を振り返り、学級の「木」をさらに大きく育てるための方法を考える。

成果と課題

多様な性の在り方について学ぶ前に、互いを大切に思い合い、違いを認め合う素地づくりが大切であると感じ、事前学習を丁寧に行った。自分が認められていることを実感できるメッセージ交換やグループトークなどに繰り返し取り組む活動を通して、自然に相手を受け入れようとする姿勢が育っていったように思う。初めての出会いであった「性の多様性」についても素直で柔軟な受け止め方をしており、今後も継続的、系統的な取組をすることで一層の効果が期待できると感じた。

倉敷市立岡田小学校 第6学年

本時のポイント

- 自分らしさを大切に継続的学習
- 性の在り方を決めるのは身体だけではないことに気付く展開の工夫

★学級活動「性の在り方を決めるのは何かな？」

「性の在り方」は何で決まるのかな？

身体の性、心の性、社会的な性、好きになる性など性の在り方を決めるものは一つではない。

「男らしさ」「女らしさ」について考える。

「性のものさし」に当てはめると・・・

自分はどのあたりに当てはまるのか考える。



みんなそれぞれであることを知る。

↓ 「多様な性のイメージ図」

みんなどこかに位置付けている。



「自分らしさ」「その人らしさ」について考える。

【児童の感想】

性の在り方を決めるのは身体だけではなくいろいろなものがあることが分かった。その人らしさを認めてもらえるとどんな人でもうれしいと思う。女性とか男性とかではなく、一人の人として見るのが大切だと思う。



「女らしさ・男らしさ」から性の多様性を考える

目指す生徒の姿

自他のよさや違いを認め、自分らしさを大切に、よりよい人間関係づくりをしようとする。また、性の多様性だけでなく、社会全体の様々な多様性も認め合い、自分らしく生きていこうとする態度を育てる。

関連学習

- 学級活動「ちがいのちがい」
あってもよい違いと、あってはならない違いがあることを理解する。
- 道徳「ドラえもんの声」
自分のよさに気づき、自分の長所を伸ばそうとする心情を養つ。

- 中学校ブロック研修会（7月）
「性の在り方はいろいろです」
 - ・ 講師 倉敷市教育委員会人権教育推進室 松尾真治 主幹
倉敷市立郷内小学校 森川友美 教諭
 - ① 多様な性の在り方
 - ② 性的マイノリティとされる子どもたちの生きづらさ
 - ③ 学校園でできること
 - ④ 小学校での実践報告

★ 学級活動 「性の在り方について考えよう」

- 学級活動
「いろいろな性についてくわしく知ろう」
- 学級活動
「『自分らしく』生きるためのヒントを見つけよう」

- 学級活動
「自分らしさが出せる学級にしよう」
自分たちの言動を振り返り、だれもが自分らしく生活できる学級について話し合う。

成果と課題

7月に教職員研修を行い、多様な性の在り方についての共通理解を図り、すべての教職員が「性的マイノリティとされる生徒も含めて、全ての生徒に必要な学習である」という認識をもって授業に臨むことができた。「人もペンギンも何が好きかはそれぞれで、それは恥ずかしいことではないと思った。」「女らしさと男らしさを入れ替えても違和感がないことに驚いた。」などの生徒の感想が成果の一つである。これからも、全ての人々が自分らしく生きていくことができる共生社会を実現するため、「自分たちの身近に人知れず苦しんでいる人たちがいるかもしれない。」という意識をもち、違いを認め合うことができるように学習を積み重ねていきたい。

倉敷市立真備東中学校 第2学年

本時のポイント

- ◎ 関連絵本での導入
- ◎ 「女らしさ・男らしさ」より「自分らしさ」

★学級活動「性の在り方について考えよう」

- 1 パワーポイントを使って
絵本「タンタンタンゴは
パパふたり」（ポット出版）
の読み聞かせをする。

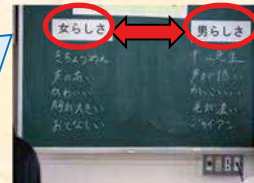


- 2 「性のものさし」で
自分の性を捉える。

性には「心の性」「身体の性」「好きになる性」「社会的な性」など、複数の捉え方があるよ。自分はどこに位置するかな。

- 3 「女らしさや男らしさ」について話し合う。
「女らしさ」「男らしさ」とは、どんなこと？

「女らしさ」「男らしさ」
を入れ替えてみたらどうだ
ろう。
それでも構わないね。一つ
ひとつは「自分らしさ」だね。



- 4 性の在り方は多様であることを確認する。
「多様な性のイメージ図」を提示し、視覚的に多様であることを捉える。

- 5 本時のまとめをする。

性の在り方は人それぞれ。その違いが自分らしさである。

主体的な学びによる「好きになる性」についての正しい理解

目指す児童の姿

性の多様性について知り、自他の性を考えることで、誰もが多様な性のどこかに位置付いていることに気付かせたい。併せて、性的マイノリティ当事者が自分らしく生きていることを知ることで、他者を認め尊重する態度を育てたい。

関連学習

学級活動「だれのこと？」

男女の違いを考えることを通して、男女の特性や才能について固定観念があることに気付くことができるようにする。

道徳「私は私よ！」

自分・友達のイメージを考えることで一人ひとりに「自分らしさ」「その人らしさ」があることに気付き、認め合おうとする心情を養う。

学級活動「どんな人に向いている？」

向いている仕事を男性・女性に分類することで、男女の役割は関係なく、「自分らしさ」「その人らしさ」を生かすことの大切さに気付くことができるようにする。

学級活動「自分の性について考えよう」

★学級活動「いろいろな性について、もっとくわしく知ろう」

道徳「すべての人が自分らしく生きる」

学級活動「自分らしさが出せる学級にしよう」

成果と課題

関連学習では、「自分らしさ」「その人らしさ」を大切にするという視点で素地づくりをしてきた。そのため、研究全体を通して、どの児童も性の多様性を理解し、受け入れることができていたように思う。学習後には、学級内でも思いやりのある言葉が増えた。また、児童が主体的に学習できるように友達と意見を交換する時間を多く設けるとともに、教材を工夫することで、全ての児童が意欲的に自分の考えをもち、それを表現することができていた。

課題としては、正しい知識を身に付けることはできたが、実生活で行動に移すことが難しいことが挙げられる。今後は、行動化を促すような事後学習も工夫し、当事者だけでなく、全ての人の「その人らしさ」を認め合える態度を育てていきたい。また、「性の多様性」については、低学年から学校全体で学習に取り組むことで、更なる指導内容の定着を図っていきたい。

倉敷市立第三福田小学校 第5学年

本時のポイント

- ◎ 児童が学びの主体となる展開の工夫
- ◎ 深い教材研究に基づく学習内容の設定

★学級活動

「いろいろな性について、もっとくわしく知ろう」

バイセクシュアルを公表している芸能人を例に、前時の性の捉え方を想起しよう

- ・ 特徴や特性、「身体の性」「心の性」「社会的な性」等

「好きになる性」はどこなのかな？



「好きになる性」について考えよう

- ・ 「好きになる」とはどういうことかな？
- ・ 相手の「どこ」を好きになるのかな？

「その人らしさ」を好きになるんだな。

性的マイノリティ（好きになる性）について知ろう

- ・ 異性愛や同性愛、無性愛など好きになる性にはいろいろなバリエーションがあるんだな。
- ・ 病気でも異常でもないんだな。



「好きになる性」は実に多様で、「その人らしさ」などを好きになる。

入念な素地づくり

「性的指向（好きになる性）」に焦点を当てた授業の工夫

目指す児童の姿

性の在り方は多様であり、自他ともに多様な性のどこかに位置付いていることへの認識を大切にしたい。正しい知識を身に付け、「自分らしく」を大切にしながら、他者と認め合い生きていくことのできる児童の育成を目指す。

関連学習

道徳『わたしは、わたしらしく』
自分のよさを見付ける。(6月)

学級活動『「女子は」「男子は」
という言い方について考えよう』
男女の特性についての固定観念に気付き、性別ではなく個性を尊重することが大切だということを理解する。(7月)

学級活動『自分の性について考えよう』

★学級活動『いろいろな性についてもっとくわしく知ろう～好きになる性～』

道徳『すべての人が自分らしく生きる』

性自認や性的指向の多様性について正しく理解し、互いに認め合える人間関係を築いていこうとする。(10月)

学級活動『自分らしさが出せる学級にしよう』(11月)

成果と課題

1学期から個性の尊重「自分らしさ」を認め合える関係づくりをし、素地づくりに努めた。そのため、児童は予想していたよりも、性の多様性を理解し、素直に受け入れることができた。自分も性の多様性のどこかに位置付いていることを理解した上で、性的マイノリティ当事者に寄り添って考え、互いを認め合うことの大切さを感じ取ることができていたように思う。しかし、知的理解としては身に付いていることを行動に移すことの難しさも垣間見られた。誤解や偏見の多い「性的指向」について、「かわいそう」ではなく「差別されるのはおかしい」と捉えることはできているので、それを行動に移すことができるよう、今後も継続して指導を行っていきたい。

倉敷市立玉島小学校 第6学年

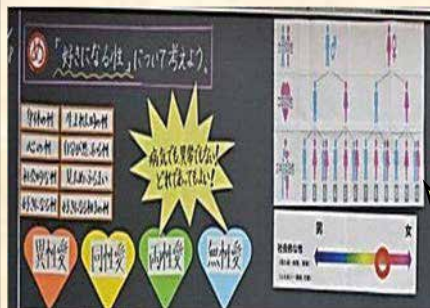
本時のポイント

- ◎ 伝え合いを生かした深い学び
- ◎ 正しい知識とプラスイメージにつながる板書の工夫

★学級活動『いろいろな性についてもっとくわしく知ろう～好きになる性～』

「好きになる性」について考えよう。

- 相手の「どんなところ」を好きになる？
 - ・ 顔 ・ 優しさ
 - ・ 性格 ・ 虫が苦手じゃない人 など
 - ⇒ 好きになるところは、人によって異なる。
- 好きなタイプの人二人いたら、どちらでもいい？
「よくない！」という反応がすぐに返ってきたが、その理由は上手く言えない...
そこで、グループトークを行った。
⇒ 「自分への思い」や「その人だから」といったように「その人らしさ」などを好きになる。
- 「好きになる性」には、どのようなバリエーションがある？
 - ・ 男の人が男の人を好きになっている。
 - ・ 女の人が女の人を好きになっている。
 - ・ 男の人でも女の人でも好きになっている。
 - ⇒ 「セクシュアリティマップ」を基に、児童が主体となってバリエーションを考える中で、性的マイノリティについて正しく理解することができた。



性の在り方において少数者であっても、病気でなくても異常でもない、どれであってもよい。

色合いやレイアウトを工夫することで正しい知識とプラスイメージにつながるようにした。

クイズの活用による性的マイノリティに関する正しい理解

目指す生徒の姿

「好きになる性」におけるバリエーションを考える中で、性的マイノリティについて正しく理解させたい。そして、どのような性の在り方であっても、その人らしさが大切だということに気付かせたい。

関連学習

学級活動「ちがいのちがい」

あってもよい違い、あってはいけない違いを理解し、多様性を受け入れる姿勢を身に付ける。



- ① 学級活動「自分の性について考えよう」
自分を含めた誰もが性のグラデーションのどこかに位置していることを理解し、自分らしさを大切にする。
- ② 学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう ～心の性、社会的な性～」
心の性、社会的な性を考える中で、性の在り方は人に決められるものではなく、自分らしさが大切であることに気付く。
- ③ ★学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう ～好きになる性～」
- ④ 学級活動「『自分らしく』生きるためのヒントを見つけよう」



学級活動「自分らしさが出せる学級にしよう」

成果と課題

以前は日常生活の中で、性に関する差別的な発言を聞くことがあったが、今回の学習を終えてそういった発言を聞くことがほとんど無くなった。今までの生活の中で自然と刷り込まれていた知識や考えが間違っていたことに気が付いたことが大きな成果ではないかとする。また、自分と違った考えや少数派の意見も尊重し、多様性を受け入れようとする温かい言動が見られる生徒が増えたように思う。そして今回、関連学習を系統立てて行ったことが正しい理解へとつながったと感じる。性の多様性については、幼少期から発達段階に応じて内容を吟味し系統立てて学習していくことで、さらに効果を上げることができるのではないだろうか。


倉敷市立福田中学校 第2学年

本時のポイント

- ◎ クイズの活用による性的マイノリティに関する正しい理解
- ◎ 授業における性的マイノリティとされる生徒への配慮

★学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう～好きになる性～」

○ 「いろいろな性クイズ」を通して、好きになる性のバリエーションについて理解しよう。

<p>問題5</p> <p>医学の進歩により、好きになる性を変えることができるようになってきた。 ○?×?</p> 	<p>答え5</p> <p style="text-align: center;">×</p> <p>好きになる性は変えられないと考えられている。そもそも同性愛は病気ではない。1993年にWHO(世界保健機関)が病気ではないと発表している。</p>
--	--


指導のポイント

- ・ 単純には答えを出しにくい問題も出題する。
- ・ 用語の説明だけでなくその考え方(病気ではないこと等)も確認する。
- ・ 少数派だけでなく、多数派も意識させる。

○ 「人を好きになること」について考えよう。

指導のポイント

- ・ 自分が人を好きになる要素について考えさせる。
- ・ バイセクシュアルであることを公言している芸能人が、人を好きになる要素について語った言葉「男だからとか女だからとかでなく、その人らしさを好きになるんです。」について考えさせる。



授業中、仮に不適切な言動があった時はスルーしない姿勢が大事。「根拠のない決めつけはおかしいよ」「みんなの問題だったよね」など冷静に考えさせるチャンス。

すべての人が自分らしく生きる

目指す児童の姿

誰に対しても偏見をもたず，常に相手のことを尊重して接していくことができるようにする。性の多様性について正しく理解し，他者の痛みや感情を共感的に受容した上で正しく判断できるようにする。

関連学習

学級活動「ちがいのちがいがい」

「あってもよい違い」と「あってはいけない違い」について考える。

学級活動「自分の性について考えよう」

四つの性の捉え方を知り，自分の性について考える。

学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう」

いろいろな性といろいろな生き方について考える。

★道徳「すべての人が自分らしく生きる」

資料「トランスジェンダーの日記より」を読んで話し合う。



学級活動「自分らしさが出せる学級にしよう」

成果と課題

性の多様性についての学習を進めていく中で，以前教室内で聞かれた「ホモ」「男のくせに」という言葉が次第に減っていった。最初は，学習内容に抵抗を感じている児童もいたが，次第に「もっと知りたい」「先生，トランスジェンダーってこういうことだね？」と学習意欲を感じる会話や発言が増えていった。児童は「その人らしさ」を大切にして，自分らしく生きることの大切さについてしっかりと考えることができたようだ。「性の多様性」に関する正しい知識を学んだからこそ，他者の痛みや感情を共感的に受容し，日常生活につながっていく道徳性や人権意識も養うことができたと思う。性的マイノリティとされる児童の有無に関わりなく，一人ひとりの児童の気持ちを尊重し，感じていることをどのように正直に考えさせ，心情を掘り下げていくかが今後の課題である。

倉敷市立琴浦西小学校 第6学年

本時のポイント

- ◎ **自分に引き寄せて考えることのできる読み物資料の作成**
- ◎ **前時で学習したことを活用し，意見の理由を追及しながら深める授業**

★道徳「すべての人が自分らしく生きる」

トランスジェンダーの日記より～ゆきの物語～
(概要) トランスジェンダーのゆきが生きづらさを感じながらも，恋人や友人に支えられ，前向きに生きている様子が綴られている。性的マイノリティ当事者の心情や登場人物の言動を追っていくことで，違いを認め合うことの大切さを感じることができる。

- どうしてゆきさんは，いじめられないといけなのだろう。
- まことさんはどうして「大丈夫？」と声をかけたのだろう。
- 親しい女友達にトランスジェンダーであることを打ち明けられたとき，何と答えますか。



- ・ みんなそれぞれ違うんだから大丈夫だよ。
- ・ 悪いことではないよ。
- ・ 自分らしさを大切にするのが大事だよ。
- ・ 困ったことがあったら相談して。

※ 上記の意見に対して，「なぜそう思ったの？」と，理由を追及し深めていく。

今までの学習を振り返って【児童の感想】

- ・ 一人ひとりの自分らしさが大切だと思う。
- ・ 「性は多様である」と知ることが大切。
- ・ 悩みを打ち明けられる友達が必要。
- ・ 相手を受け入れることが大切。

いろいろな性、いろいろな生き方～多様な性を認め合おう～

目指す生徒の姿

「多様な性」について正しい知識を身に付ける。そのうえで性的マイノリティ当事者の気持ちを共感的に受容する。また、「自分らしさ」の違いを認めるとともに、相手のことを考えられる生徒の育成を目指したい。

関連学習

- ① 学級活動「ちがいのちがいが」
社会の中の、男女の違いに関する問題への気づきや認識を促進し、決めつけや偏見の不当性に気付く。

- ② 学級活動「自分の性について考えよう」
 - ・ 男/女らしさって何だろう？
 - ・ 性のものさし、性のグラデーションから「自分らしさ」を考える。



- ③ 学級活動「いろいろな性について考えよう」
 - ・ 性的マイノリティ、LGBTなどの用語を学習する。
 - ・ 「好きになる性」について同性愛、異性愛などを学び、性の多様性を理解し、誰もがその一員であることに気付く。

- ④ ★学級活動『「自分らしく」生きるためのヒントを見つけよう』

- ⑤ 学級活動「自分らしさが出せる学級にしよう」
 - ・ 新たな学級目標をつくろう。

成果と課題

「みんな違うから、自分らしさを大切にすればいいと思う。」「外見で決めず、相手と話し、どうしたらいいかきちんと考える。」と生徒の感想にあるように、『多様な性』というアプローチから、「自分らしさ」や「人との違い」を考え、人権意識が高まったように感じられる。関連学習を含め、5時間の流れをつくって授業を行ったことによって、多面的・多角的に『多様な性』についての学習ができ、生徒にとっても教師にとっても有意義なものになった。今後は、学んだ知識や自分の考えをもとに、実際に行動できるかどうかポイントとなる。性的マイノリティ当事者への共感的受容と、相手のことを考えた行動や声掛けができよう指導・支援を続けたい。

倉敷市立北中学校 第1学年

本時のポイント

- ◎ **つかみ・深める場面でのICT機器やプレゼンの活用**
- ◎ **グループで、自分のすべきことや社会の在り方を考える**

★学級活動 『「自分らしく」生きるためのヒントを見つけよう』

井上さんの作品動画を視聴し、生徒の心をつかむ！

- 1 NHKの番組などで活躍している井上涼さんがゲイであることを公表した理由を、ブログを読んで考える。
 - ・ 好きなものを好きと言えないのがつらい。
 - ・ 日常でつくウソが多くなりすぎる。
- 2 井上さんは、今、幸せなのかな？
 - ・ 幸せなことも増えたと思う。
 - ・ 周りを恐れていることもあるかもしれない。
- 3 みんなが「自分らしく」生きることができる学校や社会にするために、何が必要か？（個人⇒グループで考える）
 - ① 自分はどうすべきか？
 - ・ 多様な性について正しく理解する。
 - ・ 相手のことを考えて行動する。
 - ・ 否定したり、差別したりしない。
 - ② 学校や社会はどう変わるべきか？
 - ・ 誰もが安心でき生活しやすい環境をつくる。
 - ・ 受け入れていく。
 - ・ 接し方を変えず人の気持ちを大切にする。

まとめはドラマのセリフから！

「自分らしく」生きるために大切なのは、正しい理解を広げ、違いを認め合うことである！！



自分らしさを大切に～多様性を認め合う生徒の育成～

目指す生徒の姿

性の在り方は多様であることを理解し、性的マイノリティ当事者の思いに共感し、社会に出た時に多様な性を認め合う生徒を育成したい。そして、誰もが「自分らしく」安心して暮らせる社会について考え、行動しようとする態度を育てたい。

関連学習

① 道徳「わたし式～相手を理解し自分の思いを伝えよう」

○ 7月 性教育講演会
「大切ないのち 大切なわたし
～おとなになっていく あなたに～」
講師：CAPおかやま 山下明美氏

ここが多様な性について考える出会い

② 学級活動「ちがいのちがいに」
・ 性別に関わる「ちがいに」を分類する。

③ 学級活動「性的バイアス（性に関する偏見）について考えよう」
④ 学級活動「多様な性について正しい知識をもとう」
⑤ ★学級活動「誰もが『自分らしく』暮らせる社会について考えよう」

核となる授業

⑥ 学級活動「ユニバーサルデザインについて知ろう」
・ すべての人にとって安全・安心で利用しやすくデザインする考え方だということを知る。
⑦ 道徳「虎」
・ 自尊感情を高め、自分を好きになる。

成果と課題

「性の多様性」について生徒と共に学び、教師自身がより正しく理解することができた。性的マイノリティ当事者のそれぞれの体験から、性的指向と性自認では、気付く年齢に差があることが分かった。身体以外にも多様な性があることの指導は、小学校もしくは就学前から取り組んではどうかと感じた。カミングアウトしている有名人の影響もあり、生徒は性の多様性について比較的柔軟な考えをもっている。正しい知識や理解が、差別や偏見を未然に防止し、多様性を認め合う初めの一歩になる。そこで、まずは教師が正しい知識をもち、使う言葉に責任をもち、当事者の思いを理解して、授業に臨むことが必要であると感じた。

倉敷市立味野中学校 第2学年

本時のポイント

- ◎ 当事者の思いに共感することができる資料選び
- ◎ 性の多様性に関する関連学習の充実

★学級活動「誰もが『自分らしく』暮らせる社会について考えよう」
資料「ダブルハピネス」杉山文野著（講談社）



（概要）トランスジェンダーであることをカミングアウトした時、全否定した母、理解してくれた友。『フミノはフミノだよ。』という言葉に救われた。

誰もが「自分らしく暮らしていくこと」のできる社会にするため、自分にできることを考える。

「ダブルハピネス」を一部抜粋し、資料として活用

- 自分を偽っていた中学生時代はどんな思い？
- ・ つらい。
- ・ 悲しい。
- ・ だれも分かってくれない。



- 「自分らしく」暮らせるようになったのはなぜ？
- ・ 「フミノはフミノだよ。」
- ・ 「性別は関係ない。」と言ってくれた。

自分を理解してくれる友達の存在って、本当に大切だなあ…。

- 自分には何ができるかな？
- ・ 困っている人に寄り添う。
- ・ 正しく理解する。
- ・ 互いに認め合う。



多様性を認め合うことが大切だ

参考資料

リーフレット等

- 『先生に知ってもらいたい多様な性』平成 28 年度岡山市市民協働推進モデル事業 プラウド岡山×岡山市教育委員会事務局指導課 2016 年
- 『主に岡山県内の性的マイノリティを対象とした学校生活に関するアンケート調査報告書』岡山市市民協働推進ニーズ調査事業 プラウド岡山 2016 年
- 『教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック Ver. 3』奈良教職員組合・性と生を考える会 2015 年
- 『性自認および性的指向の困難解決に向けた支援マニュアルガイドライン』一般社団法人社会的包摂サポートセンター 2016 年
- 『子どもの“人生を変える”先生の言葉があります。』平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業 研究代表者 日高庸晴 2015 年
- 『わたしたちはここにいる 性的マイノリティの声：奈良県版』性と生を考える会 2016 年
- 『性はグラデーション』大阪市淀川区・阿倍野区・豊島区 3 区合同ハンドブック』2015 年
- 『ありのままに自分らしく生きられるまち 宝塚（教職員用）』宝塚市・宝塚市教育委員会 2017 年
- 平成 27 年度『人権教育指導者用リーフレット 誰もが自分らしく生きるために』栃木県教育委員会 2015 年
- 『ONE STEP UP 自分らしさを見つけよう!!』倉敷市市民局人権政策部男女共同参画課

書籍

- 『いろいろな性, いろいろな生きかた (全 3 巻)』渡辺大輔監修 ポプラ社 2016 年
- 『もっと知りたい! 話したい! セクシュアルマイノリティ ありのままのきみがいい (全 3 巻)』日高庸晴著 汐文社 2015 年
- 『LGBTQ を知っていますか?“みんなと違う”は“ヘン”じゃない』日高庸晴監修 星野慎二著 少年写真新聞社 2015 年
- 『LGBT ってなんだろう? からだの性・こころの性・好きになる性』薬師実芳・笹原千奈未・古堂達也・小川奈津己著 合同出版 2014 年
- 『先生と親のためのLGBTガイド もしあなたがカミングアウトされたなら』遠藤まめた著 合同出版 2016 年
- 『LGBT なんでも聞いてみよう 中・高生が知りたいホントのところ』QWRC&徳永桂子著 子どもの未来社 2016 年
- 『封じ込められた子ども, その心を聴く 性同一性障害の生徒に向き合う』中塚幹也著 ふくろう出版 2017 年
- 『LGBT 問題と教育現場—いま, わたしたちにできること— (早稲田教育ブックレット NO. 13)』早稲田大学教育総合研究所監修 学文社 2015 年
- 『性について語ろう 子どもと一緒に考える (岩波ブックレット No.872)』池上千寿子著 岩波書店 2013 年
- 『カミングアウト・レターズ 子どもと親, 生徒と教師の往復書簡』RYOJI・砂川秀樹編 太郎次郎社エディタス 2007 年
- 『ダブルハピネス』杉山文野著 講談社 2006 年
- 『セクシュアルマイノリティってなに?』日高庸晴監修 中山成子絵 少年写真新聞社 2017 年
- 『学びの場における多様性と人権 (季刊セクシュアリティ第 74 号)』一般社団法人“人間と性”教育研究協議会 エイデル研究所 2016 年
- 『多様性教育入門 参加型人権教育の展開』大阪多様性教育ネットワーク・森実編著 解放出版社 2005 年
- 『多様性の学級づくり 人権教育アクティビティ集』大阪多様性教育ネットワーク・森実編著 解放出版社 2014 年

<絵本>

- 『タンタンタンゴはパピふたり』ジャスティン・リチャードソン文ほか ポット出版 2008 年
- 『わたしはあかねこ』サトシン作 西村敏雄絵 文溪堂 2011 年
- 『たまごちゃん, たびにでる』フランチェスカ・バルディ文ほか イタリア会館・福岡 2013 年
- 『りつとにじのたね』ながみつまき文 いのうえゆうこ絵 リーブル出版 2016 年
- 『じぶんをいきるためのるーる。』ippo. 解放出版社 2015 年

参考資料

授業実践について

- 『中学校における「性の多様性」理解のための授業づくり（埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 紀要 No.10 2011）』埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター 2011年

視聴覚教材

- 『あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権（DVD）』法務省人権啓発ビデオギャラリー 2015年 ※YouTubeで視聴可能, 倉敷市で貸出可能
- 『先生にできること～LGBTの教え子たちと向き合うために～（DVD）』早稲田大学教育学部金井景子研究室制作 2012年
- 『多様な性ってなんだろう？<中学生向け映像教材>』特定非営利活動法人ReBit製作 2017年
- 『男らしさ, 女らしさって何?』NHK for School 道徳ドキュメント 2015年

本冊子のデータファイル及び関連する学習指導案等のデータファイルは、倉敷市ホームページと倉敷市教育委員会情報共有システムに登録されています。必要に応じてダウンロードしてお使いください。



倉敷市ホームページ

…本冊子のデータファイル

倉敷市> 市の組織> 教育委員会> 人権教育推進室> 人権教育実践資料>

<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/30449.htm>

人権教育実践資料3 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ

倉敷市教育委員会情報共有システム

…本冊子のデータファイル, 関連する学習指導案のデータファイル

広場に行こう!>3 様式・事務手引の広場> 様式・事務手引のキャビネット>

002-1 人権教育推進室（指導資料）>

003 人権教育実践資料3 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ>

00 人権教育実践資料3 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ

01 老松小 第4学年学級活動「性のとびらを開けてみよう」

02 倉敷西小 第5学年学級活動「性の在り方はいくつあるのか」

03 岡田小 第6学年学級活動「性の在り方を決めるのは何かな？」

04 真備東中 第2学年学級活動「性の在り方について考えよう」

05 第三福田小 第5学年学級活動「いろいろな性について, もっとくわしく知ろう」

06 玉島小 第6学年学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう～好きになる性～」

07 福田中 第2学年学級活動「いろいろな性についてもっとくわしく知ろう～好きになる性～」

08 琴浦西小 第6学年道徳「すべての人が自分らしく生きる」

09 北中 第1学年学級活動「『自分らしく』生きるためのヒントを見つけよう」

10 味野中 第2学年学級活動「誰もが『自分らしく』暮らせる社会について考えよう」

11 「倉敷モデル」学習指導案（例）



平成29年度人権教育課題研究委員

倉敷西小学校	松森 史	老松小学校	和泉谷 奈美
第三福田小学校	長原 あゆみ	琴浦西小学校	下山 航平
玉島小学校	津田 里保	岡田小学校	東 真弓
北中学校	藤本 将太	福田中学校	川田 武志
味野中学校	伊丹 里江	真備東中学校	長安 一徳

人権教育課題研究事業について

学校教育に関わりの深い人権課題について実践的研究を進め、その成果を倉敷市内の各学校園に広げることにより、倉敷市の学校園人権教育の推進に生かすことを目的に、平成17年度より実施しています。

本資料は、学校園における実践に活用できるように、10名の人権教育課題研究委員の研究実践を基に作成したものです。なお、本年度の研究と平成28年度「性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅰ」のねらいは共通しており、両方とも参照していただくことで、より実践の幅が広がると思います。

人権教育実践資料3 性の多様性を認め合う児童生徒の育成Ⅱ

倉敷市教育委員会 学校教育部指導課 TEL 086-426-3831
人権教育推進室 TEL 086-426-3803

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。